

万博という鏡：制度・都市・未来 ～大阪・関西万博EXPO2025記録（下）～

特許庁主催・弁理士会共催「明日を変える知財のチカラ」取材

- 海外パビリオンについて
- シグネチャーパビリオンについて
- 日本国内パビリオン（政府・民間）について



芸術・科学・知財クリエイター・弁理士（雅号）
大樹 七海

はじめに

2025年4月13日（日）から10月13日（月・祝）までの184日間にわたり開催された「2025年大阪・関西万博」は、盛況のうちに無事閉幕しました。

来場者数は、会期終了時点で累計29,017,924人、このうち、一般来場者は25,578,986人であり、開幕前に想定されていた2,820万人の約9割に達しました。

一方、知的財産に関する取り組みは、万博閉幕間際に特に注目すべき動きがありました。

特許庁主催・日本弁理士会共催による展示企画「明日を変える知財のチカラ～想いを届ける、世界をよくする～」が10月2日（木）から10月10日（金）までの9日間、万博会場内「EXPOメッセ（WASSE）」にて開催されました。

本記事では、小職が10月9日に行った同展示の取材に基づき内容を紹介するとともに、万博全体の総括を試みます。執筆にあたっては、以下の点を意識し、読みやすく工夫しました。また、本記事は（上）・（下）に分けての掲載となり、本号は（下）となります。なお、執筆時点で閉幕から1週間経過しています（10月20日）。

本記事の執筆目的

本稿では、以下の視点を軸に、2025年大阪・関西万博の総括を試みます：
○「万博とは何か？」
万博の基本を理解すること

○「大阪・関西万博の位置づけとは？」

大阪の近代史100年を通して、都市開発の過去と未来について考えること

○実際に訪れることができなかつた方々にも、“行った気分”“わかった気分”を届けること

○参加・不参加を問わず、万博という国家的イベントを通じて知識と話題を共有し、楽しむこと

○万博がどのように始まり、どのように終わったのかを記録として残すこと

○50年後にこの記事を読んだ人が、「この時代に何が起きたのか」を理解できるようにすること

執筆の背景と理由



出典：万博閉幕後の公式サイト　冒頭話題を呼んだ、大屋根リングから見る夕暮れの絶景が背景に。



出典：万博閉幕後の公式サイト　ミャクミャクからのご挨拶　万博の象徴である、公式キャラクターと大屋根リング

大阪・関西万博は、従来の万博とは大きく異なる体験設計がなされました。事前予約が前提となり、人気パビリオンは数分で予約枠が埋まり、予約不要のパビリオンも1～7時間待ちや入場制限、閉館時間繰り上げが起き、さらに、屋外環境にて、風雨や酷暑といった厳しい気象条件が重なりました。入場者数に対する運営・交通のバランスは、キャパシティーオーバーといえるもので、1日で複数の人気パビリオンを巡ることや、目当ての食事を楽しむことは、最初から諦めざるを得ない状況でした。

このような事情から、近隣に住んでおらず、複数回の訪問が難しい方、予約のための事前準備や行動計画に時間を割けない方、長時間の待機が困難な方にとっては、参加のハードルが高いもので、多くの人が「興味はあるけれども諦めた」という選択をせざるを得なかったと思います。

しかしながら、万博は国家プロジェクトであり、日本国民としてその概要を知っておきたいという思いは自然だと思います。また、日本に出演して下さった各国の方々は、日本のひとたちに向けて、その労力を割いて下さったこともあります。そして、行けた人と行けなかった人の間に、時代の感覚や記憶を共有できないことは、少し寂しくもあります。また、実際に訪れた方であっても、1日ではごく一部の体験に限られ、個々の体験記は局所的で断片的になります。そのため、万博全体の姿を把握することが難しくなっています。さらに開催計画からすでに11年以上経過し、万博発端の記憶が薄れてもいます。

本記事では、こうした現状を補うべく、万博の全体像を俯瞰できるような記録を目指します。これは、私自身が現在連載中の「発明事業列伝」において、過去の状況を把握するための文献を探す際、情報や視点が散逸していて苦労している経験に基づくものです。「これだけ読めば概要がつかめる」——そんな資料を求める気持ちから、本稿の執筆に至りました。

【前号からの続き】

7. 海外パビリオンについて



大屋根リングから見下ろす、海外パビリオン群
筆者撮影



沢山の人！ 筆者撮影



個性的で巨大なパビリオン 筆者撮影

お待ちかね、「万博の華」とも呼ばれる海外パビリオンについて、地域別にまとめました。

万博会場では、パビリオンがゾーンごと（立地エリア）に配置されていましたが、実際に会場を訪れていない方には少しあまりづらく、訪れた方にとっても、後から国ごとの展示内容を確認するには、地域別に整理されていた方が便利だと思われます。

そこで今回は、各地域ごとに出展国とその展示内容（目玉や話題など）を一覧にしました。各パビリオンの写真は公式HPに保存されていますので、そちらをご参照下さい。

このまとめを読めば、実際に行った方とも話が通じやすくなり、行っていない方も「行った気分」になれるはずです。さらに、自分で“国内万博ツアー”的な企画を立てることもできるかもしれません。



出典：六大州および小地域 国際連合